

■ 檜山管内の状況及び学力向上策 (小学校数:17校、児童数:194人) (中学校数:10校、生徒数:170人)

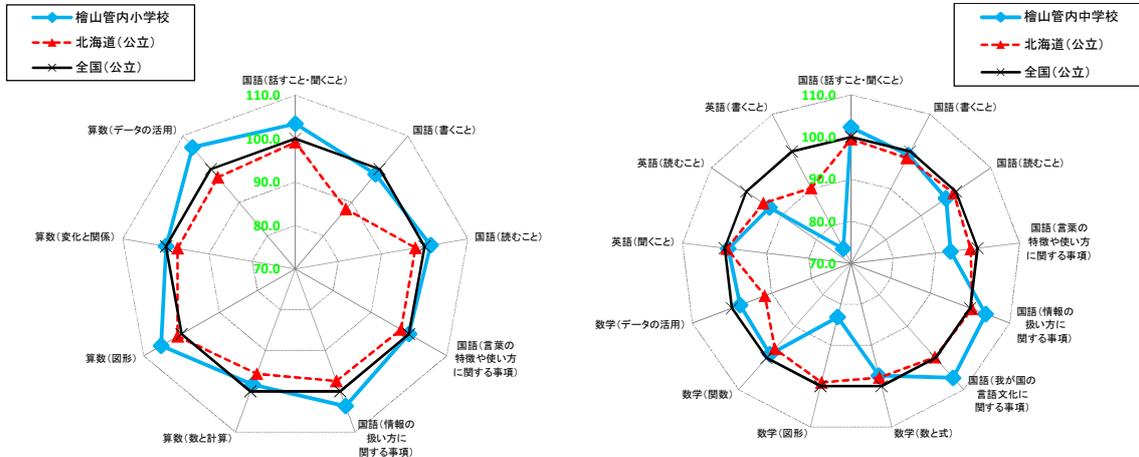
【教科全体の状況】

小学校

平均正答率	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学	中学校英語
檜山管内	68[68.3]	63[63.3]	71[70.5]	49[49.0]	42[42.4]
全国	67[67.2]	63[62.5]	70[69.8]	51[51.0]	46[45.6]

中学校

【リーダーチャート】教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

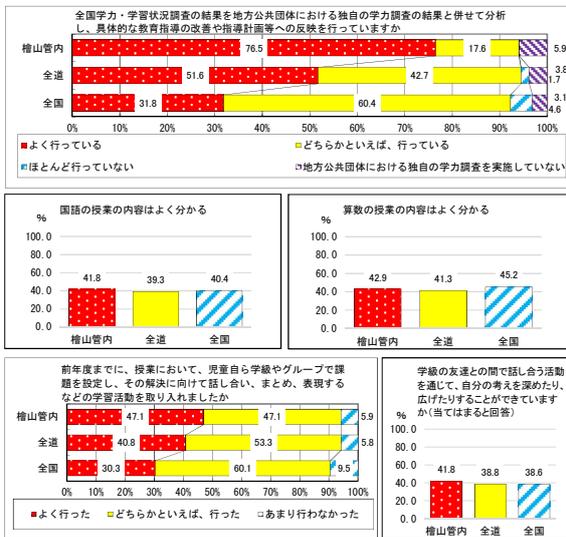


【平均正答率の推移】管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率の経年変化

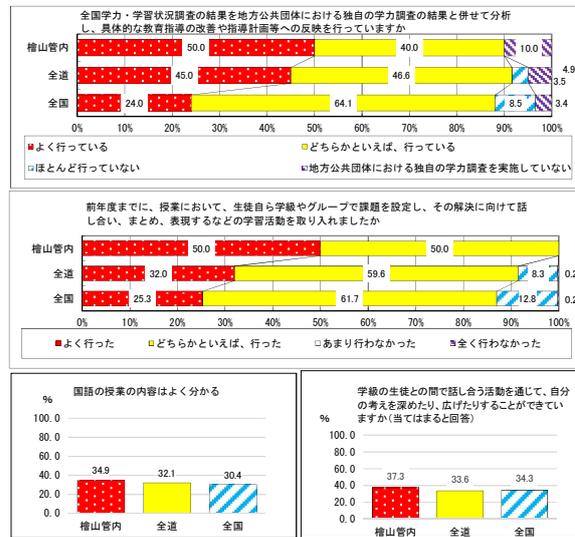


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

管内の多くの小学校において、全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をよく行い、児童にとって「よく分かる」授業づくりが進められたことなどにより、国語及び算数の5領域2事項において、平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

管内の多くの小学校で、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことなどにより、「個別最適学び」と「協働的な学び」の充実が図られ、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

管内の多くの中学校において、全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をよく行い、国語において、生徒にとって「よく分かる」授業づくりが進められたことなどにより、国語の1領域2事項において、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

管内の多くの中学校において、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する等の学習活動を取り入れたことなどにより、「個別最適学び」と「協働的な学び」の充実が図られ、学級の生徒との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【檜山管内の学力向上策】については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

# 檜山管内における学力向上の取組

## 1. 管内教育の重点(学力)

- 根拠に基づいた検証改善サイクルの充実
- 子どもを主語にした授業実践の充実
- 教職員の資質能力の向上に向けた取組の充実

## 2. 具体的な改善策

- (1) 根拠に基づいた検証改善サイクルの充実
  - 学校経営訪問等の機会を用いた、各校の実情に応じた検証改善サイクルの質的な向上
  - 学校教育指導訪問等の機会を用いた、児童生徒の興味・関心や定着度を踏まえた教育課程の改善・充実
- (2) 子どもを主語にした授業実践の充実
  - 「学び合いプロジェクト」における校種を越えた好事例の共有や、学校種を越えた教員間での協議による、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- (3) 教職員の資質能力の向上に向けた取組の充実
  - 「学び合いプロジェクトPlus」における、中堅・ベテラン層を含む教員への研修やフォローアップの充実等による、教員の資質能力の向上
  - 授業と家庭学習の往還の在り方に関する検討機会の設定による、教員の主体的な授業改善意識の向上

## 3. 令和5年度(2023年度)の取組

月	(1) 根拠に基づいた検証改善サイクルの充実	(2) 子どもを主語にした授業実践の充実	(3) 教職員の資質能力の向上に向けた取組の充実
4	学校教育指導訪問 (遠隔コンサルテーション)	オール檜山「学び合い」プロジェクト(年10回)	
5	学校教育指導訪問(要請訪問)		
6	第1回EBE協議会		
7	全国学力・学習状況調査 結果の分析・活用		
8	教育委員会訪問		
9	異校種訪問		オール檜山「学び合い」 プロジェクトPlus
10			
11	第2回EBE協議会		
12		中学校区における 合同研修会(町教委主催)	
1	第3回EBE協議会		
2			
3	檜山管内教育推進の重点及び各種事業における取組の評価		